

大阪市役所医師会報

発行 大阪市役所医師会

〒540-0008 大阪市中央区大手前2丁目1-7 大阪赤十字会館6階 (一財)大阪市環境保健協会内 TEL (06) 4792-7070

No.144 2021年(令和3年)10月

巻頭言

コロナ第5波、学術集会

大阪市役所医師会会長 西口 幸雄
(大阪市立十三市民病院 病院長)

新型コロナウイルス肺炎の勢いも急速に衰え、第5波が収束に向かっています。患者が減ってきた理由は、ワクチンが広がったためだとか、肺炎になっても病院に入院できないかもしれないといった、みんなの危機意識が広まったためだとか、もともとデルタ株はインド由来のものなので涼しくなってくると感染力が衰える、とか、いろいろ言われていますが、どれも関係しているような、関係ないような感じでよくわかりません。しかし、医療従事者にとって、患者さんが減少してくることはいいことで、十三市民病院でも90人まで受け入れ可能だと言っていました、30人から40人程度のベッド占拠



●今号の
主な内容

巻頭言「コロナ第5波、学術集会」	1頁
令和3年度大阪市役所医師会学術集会報告	3頁
学術集会プログラム 優秀演題抄録	
学術集会特別講演「千年カルテの現状と今後の展望」	10頁
令和3年度大阪市役所医師会総会報告	12頁
令和2年度事業報告 令和3年度事業計画	
代議員会議事録(4～9月分)	15頁
大阪市役所医師会代議員名簿	21頁
大阪市役所医師会役員・委員会組織表	22頁
お知らせ	23頁

率で推移しています。患者さんは軽症・中等症の20代から60代の人が多く、抗体カクテル療法、レムデシビル投与など治療の選択肢も多く、医師・看護師にとっては毎日忙しい日々が続いています。でも第3波や4波のように重症化する人は少なめで、病棟での緊迫感は減少している感じがします。このまま患者が減少し続けて、できるだけ入院患者をゼロに近づけてほしいものです。ただ、緊急事態宣言が解除されて、人の交流がふえてきますと、まだまだワクチン接種率が50%程度ですので、また第6波が起こるでしょう。寒くなってきますしこれからがウイルス性肺炎の本番だと思います。早く希望者全員にワクチン接種が進んでほしいものです。十三市民病院においても、ワクチン接種した方でも感染して入院されていますが、重症化する人はいません。ワクチン接種を是非早く進めてほしいと思います。

こんな中、8月28日に第58回大阪市役所医師会学術集会が開催されました。去年はコロナ禍で中止になりましたので、2年ぶりです。8月末はまだ肺炎患者も蔓延していましたので、集合型の開催をすることに賛否両論ありましたが、参加される方々はほとんどワクチン接種されておられるであろうこと、感染に対して十分留意されているだろうとの考えで、集合型で開催することにしました。総会に続いて、一般演題10題、続いて特別講演が行われました。一般演題では、十三市民病院の沼口先生、総合医療センターの木村先生が最優秀賞を受けられました。二人とも糖尿病内科です。いいご発表でした。おめでとうございます。また特別講演では、京都大学・宮崎大学名誉教授、ライフデータニシアティブ代表理事の吉原博幸先生から「千年カルテの現状と今後の展望」のご講演をいただきました。カルテにあるビッグデータを使えば、コロナや未知の病気に対する研究や製薬研究に非常に有効です。これからますます話題になって来そうなご講演でした。現在のところ、登録施設の少なさが問題だということです。

今年は2年越しで集合型で学術集会を開催することが出来ました。やはり学術発表や講演会は対面開催がいいですね。討論が十分にできますし、わかりやすく、生（ナマ）の効果が絶大です。来年も対面で開催されることを望んでいます。

この拙稿が届くころには第6波が起こっていないことを願います。

目次

編集後記

巻頭言

第1部 一般演題

第2部 特別講演

第3部 総会

第4部 閉会

第5部 後記

第6部 索引

第7部 謝辞

第8部 編集後記

第9部 編集後記

第10部 編集後記

第11部 編集後記

第12部 編集後記

第13部 編集後記

第14部 編集後記

第15部 編集後記

第16部 編集後記

第17部 編集後記

第18部 編集後記

第19部 編集後記

第20部 編集後記

第21部 編集後記

第22部 編集後記

第23部 編集後記

第24部 編集後記

第25部 編集後記

第26部 編集後記

第27部 編集後記

第28部 編集後記

第29部 編集後記

第30部 編集後記

第31部 編集後記

第32部 編集後記

第33部 編集後記

第34部 編集後記

第35部 編集後記

第36部 編集後記

第37部 編集後記

第38部 編集後記

第39部 編集後記

第40部 編集後記

第41部 編集後記

第42部 編集後記

第43部 編集後記

第44部 編集後記

第45部 編集後記

第46部 編集後記

第47部 編集後記

第48部 編集後記

第49部 編集後記

第50部 編集後記

第51部 編集後記

第52部 編集後記

第53部 編集後記

第54部 編集後記

第55部 編集後記

第56部 編集後記

第57部 編集後記

第58部 編集後記

第59部 編集後記

第60部 編集後記

第61部 編集後記

第62部 編集後記

第63部 編集後記

第64部 編集後記

第65部 編集後記

第66部 編集後記

第67部 編集後記

第68部 編集後記

第69部 編集後記

第70部 編集後記

第71部 編集後記

第72部 編集後記

第73部 編集後記

第74部 編集後記

第75部 編集後記

第76部 編集後記

第77部 編集後記

第78部 編集後記

第79部 編集後記

第80部 編集後記

第81部 編集後記

第82部 編集後記

第83部 編集後記

第84部 編集後記

第85部 編集後記

第86部 編集後記

第87部 編集後記

第88部 編集後記

第89部 編集後記

第90部 編集後記

第91部 編集後記

第92部 編集後記

第93部 編集後記

第94部 編集後記

第95部 編集後記

第96部 編集後記

第97部 編集後記

第98部 編集後記

第99部 編集後記

第100部 編集後記



第58回(令和3年度)

大阪市役所医師会学術集会報告

大阪市役所医師会学術委員長 依藤 亨

(大阪市立総合医療センター病院長補佐 小児代謝・内分泌内科)

令和3年度の大阪市役所医師会学術集会は2021年8月28日に大阪市立総合医療センターさくらホールで開催されました。前年度が新型コロナウイルスの流行により中止となったため、2年ぶりの開催となりました。巷ではまだ新型コロナウイルスの緊急事態宣言中でもあり、参加は2回ワクチン修了者にかぎり、会場も密にならないよう注意しての開催となりました。

結果的に、参加者は47人といつもより少なめとなりましたが、久しぶりのface-to-faceの学術集会の良さをあらためて感じる会となりました。

今回は、会員から10題の演題と、特別講演にはライフデータイニシアティブ代表の吉原博幸先生から、「千年カルテの現状と今後の展望」というタイトルでご講演をいただきました。一般演題は例年になく力のこもったもので、優劣をつけがたい発表ばかりでしたが、最終的には十三市民病院糖尿病内分泌内科、沼口隆太郎先生の「血糖コントロールがCOVID-19の重症化に及ぼす影響」と総合医療センター糖尿病内科、木村真紀子先生の「Atezolizumab投与後に発症した1型糖尿病の1例及び、当院での抗ヒトPD-1/PD-L1抗体投与後発症1型糖尿病の特徴」が同点で最優秀演題に選出されました。期せずして糖尿病関連の演題が2つ選ばれることとなりました。吉原先生の特別講演は国内の電子カルテを一定の形で電子化して相互に連携した形で永久に使用できるようにするという試みで、大規模データの有効利用と社会への還元の可能性を感じる魅力的な活動を教えていただきました。今後のさらなる進展を期待したいと思わせてくれました。

コロナ禍で異例続きの学術集会でしたが、なんとか開催できたのは会員の先生方のご協力の賜物と感謝いたします。今後もこの会が連綿と続いていくことを祈念しています。



第58回（令和3年度）大阪市役所医師会学術集会プログラム

令和3年8月28日（土） 於：大阪市立総合医療センター さくらホール

開会の辞

大阪市役所医師会会長 十三市民病院 院長 西口幸雄

一般演題（口演9分、質疑4分）

【セッション1】**座長** 大阪市立総合医療センター 糖尿病内科部長 細井雅之

(1) COVID-19自粛が中枢性思春期早発症発症頻度に与えた影響の調査

大阪市立総合医療センター 小児代謝・内分泌内科

○松原一樹、渡部瑤、北山称、山田勇氣、樋口真司、依藤亨

(2) 成人後の神経認知機能予後の改善を目的とした小児髄芽腫の治療開発

大阪市立総合医療センター 小児医療センター 小児血液腫瘍科

○山崎夏維、東紗希子、野口真由子、菊池菜摘、仁谷千賀、岡田恵子、
藤崎弘之、原純一

(3) 血糖コントロールがCOVID-19の重症化に及ぼす影響

大阪市立十三市民病院 糖尿病・内分泌内科

○沼口隆太郎、福本まりこ、日浦義和

【セッション2】**座長** 大阪市立総合医療センター 小児総合診療科副部長 藤丸季可

(4) 当院での最先端ロボット支援手術～成人のがんの手術から小児の先天性疾患へ～

大阪市立総合医療センター 小児泌尿器科

○石井啓一、西原千香子、山肩正輝

泌尿器科

川口晃、榮井広嗣、西出峻治、南彰紀、羽阪友宏、北本興市郎、浅井利大、
上川禎則

(5) 心不全地域医療連携の新しい取り組み

大阪市立総合医療センター 循環器センター 循環器内科

○松村嘉起、阿部幸雄、野村菜々香、藤澤直輝、田村尚大、林雄介、齋藤聡男、
仲川将志、占野賢司、松本亮、成子隆彦

(6) 当院の低電圧での肝胆膵dynamicCTの撮像条件の最適化

大阪市立総合医療センター 放射線診断科

○大隈智尚、松下周、前林徹範、濱本晋一、村田佳津子、真鍋隆夫

【セッション3】 **座長** 大阪市人事室医務監 出雲谷恭子

(7) 新型コロナウイルス感染症対応における保健所の役割と課題

大阪市保健所

○國吉裕子、半羽宏之、中山浩二、廣川秀徹、吉田英樹、吉村高尚

(8) Atezolizumab 投与後に発症した1型糖尿病の1例及び、当院での抗ヒトPD-1/
PD-L1抗体投与後発症1型糖尿病の特徴

大阪市立総合医療センター 糖尿病内科

○木村真紀子、玉井杏奈、薬師寺洋介、高橋尚子、福田麻由、田添聡司、飯田宏美、
佐倉剛史、元山宏華、福本まりこ、細井雅之

(9) コロナ禍における整形外科疾患電話診療

— 患者診療満足度に影響を与える因子の検討 —

大阪市立十三市民病院 整形外科

○林和憲、田中亨、坂和明、榎原恒之、前野考史、窪田譲

(10) 当科における簡易式surgical smoke排煙システム (ESSS) の有用性の検討

大阪市立総合医療センター 乳腺外科・手術センター看護部

○池田克実、瀬戸郁美、亀井佑梨、渡部智加、小川佳成、手術センター看護部

特別講演 **座長** 大阪市立総合医療センター 内分泌内科 金本巨哲

「千年カルテの現状と今後の展望」

京都大学・宮崎大学名誉教授 ライフデータイニシアティブ代表理事

吉原 博幸 先生

講評・優秀演題発表

審査委員代表

閉会の辞

学術委員長

大阪市立総合医療センター病院長補佐 小児代謝・内分泌内科 依藤亨

血糖コントロールがCOVID-19の重症化に及ぼす影響

大阪市立十三市民病院 糖尿病・内分泌内科

○沼口隆太郎 福本まりこ 日浦義和

【背景】

2019年12月に中国武漢市でSARS-COV-2ウイルスが初めて検出され、世界各地へ感染拡大した。日本においては2020年1月に最初の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）患者が検知された。2021年7月中旬までに世界では1.89億人の感染者と407万人の死者が報告され、日本では83.2万人の感染者と約1万5千人の死者が報告され、大阪府は国内で最大の死者数を認めている。当院では2020年3月25日にCOVID-19患者受け入れを開始し、4月14日に『コロナ専門病院』に指定されて以降、軽症～中等症COVID-19患者の重点医療機関として稼働を開始した。2021年7月まで1200例以上のCOVID-19患者入院を受け入れている。

COVID-19のリスク因子として、糖尿病・血糖コントロールが関連していると多々報告されている。

COVID-19では2型糖尿病はICUでの全死亡率が上昇することが報告され（Dannis et al.Diabetes Care,2021）、韓国の5307人のCOVID-19患者では、入院・酸素治療・人工呼吸器使用・死亡と重症度が上がるにつれて糖尿病の罹患率が高いことが報告された（Moon et al.Diabetes Metab J,2020）。

15か月以内のHbA1c7.5%以上である群ではCOVID-19関連死亡率が増加し（Williamson et al.bioRxiv,2020）、2型糖尿病群ではCRP、D-ダイマーが上昇し、入院時のSpO₂は低下し、ARDS、急性腎不全、Septic shock、血栓塞栓症のリスクとなり、院内死亡率が1.49倍であった（Zhu et al.Cell Metabolism,2020）。また糖尿病の有無にかかわらず入院時の高血糖が重症化の予測因子となる（Cai et al.Diabetes Res.Clin.Pract.,2020）などの報告がある。

しかしながら本邦における血糖コントロールとCOVID-19の重症化に関する報告は少ない。今回は2021年3月から感染拡大した第4波について、血糖コントロールとCOVID-19の重症化に及ぼす影響について検討した。

【方法】

対象は2021年3月10日から2021年5月8日までに当院へ入院した軽症～中等症Ⅱの患者168例である。喫煙歴不明者14名を除外し154例で解析した。糖尿病の既往あり・糖尿病治療薬あり・HbA1c 6.5%以上のいずれかを満たした場合糖尿病ありと定義した。重症度に関しては厚生労働省の基準に沿い、SpO₂ 96%以上を軽症、SpO₂ 93～95%を中等症Ⅰ、酸素治療中を中等症Ⅱと分類した。重症に関しては当院では人工呼吸器管

理をしていないため、酸素流量7L/min以上と定義し後方視的にCox比例ハザード解析を行った。

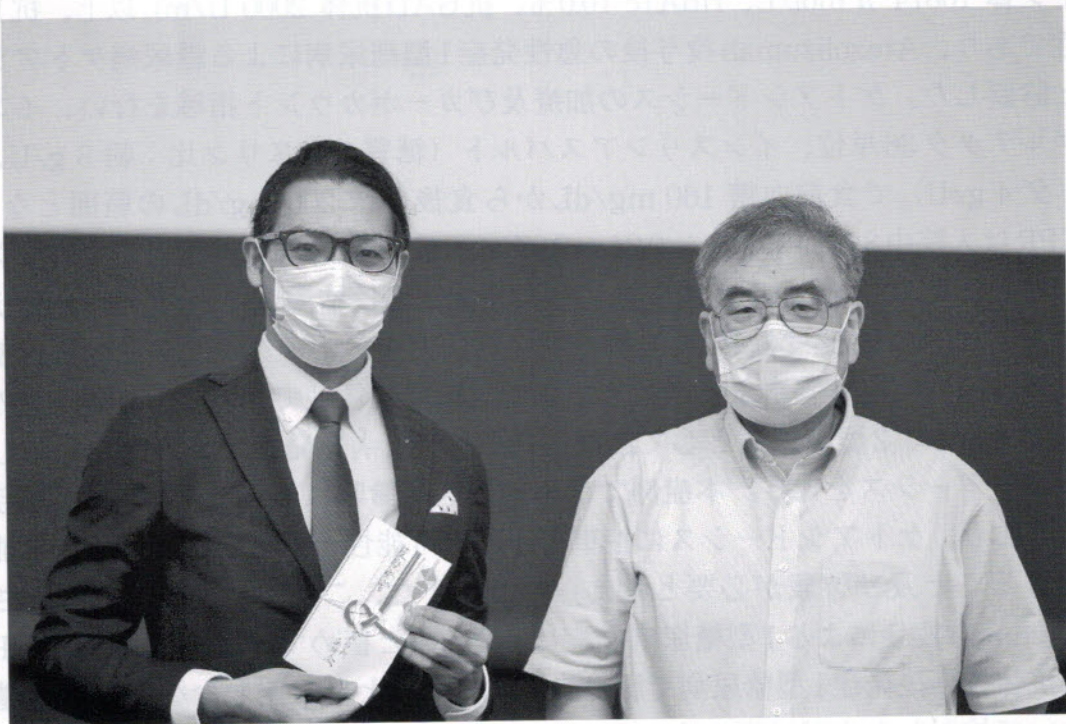
【結果】

平均年齢は56.7歳、BMI 23.8kg/m²、HbA1c 6.3%、随時血糖値 126.7mg/dl、入院時酸素流量0.85 L/min、糖尿病44例(28.6%)であった。入院時の重症度は軽症73例(47.4%)、中等症Ⅰ27例(17.5%)、中等症Ⅱ54例(35.1%)、発症から入院までの平均日数6.2日、発症から重症化までの平均日数9.6日、平均入院日数13日であった。

多変量Cox比例ハザード解析で、年齢(HR=1.028, p=0.021)、HbA1c(HR=1.399, p=0.019)、入院時酸素流量(HR=1.432, p=0.005)は重症化と独立して関連した。

【結論】

入院時の年齢、HbA1c、酸素流量は臨床因子と独立した有意な重症化の予測因子である。



Atezolizumab投与後に発症した1型糖尿病の1例及び、
当院での抗ヒトPD-1/PD-L1抗体投与後発症1型糖尿病の特徴

大阪市立総合医療センター 糖尿病内科

○木村真紀子 玉井杏奈 薬師寺洋介 高橋尚子 福田麻由 田添聡司
飯田宏美 佐倉剛史 元山宏華 福本まりこ 細井雅之

症例は67歳女性。X-5年2型糖尿病の診断でメトホルミン 750 mgとシタグリプチン 50 mg内服開始され、HbA1c 7.0%台で経過していた。X年1月肺小細胞癌・多発縦隔リンパ節転移 (cT2N2M0) に対しCBDCA+VP-16+Atezolizumab4コース施行し、維持療法としてAtezolizumab 1コースを施行した。X年6月13日から口渇感と多飲多尿が出現し近医を受診、随時血糖 500 mg/dL台であり、ダパグリフロジン内服とインスリンリスプロ各食前4単位を開始された。その後も血糖は400 mg/dL台で経過し、6月22日嘔気嘔吐を主訴に当院救急受診した。来院時のpH 7.074、血糖 526 mg/dL、血中ケトン体 10874 μ mol/L、HbA1c 10.0%、抗GAD抗体 2000 U/mL以上、抗IA2抗体陰性であり、Atezolizumab投与後の急性発症1型糖尿病による糖尿病ケトアシドーシスと診断した。ケトアシドーシスの加療及びカーボカウント指導を行い、インスリンデグルデクタ 36単位、インスリンアスパルト (糖質インスリン比:朝 3 g/U、昼 6 g/U、夕 4 g/U) で食前血糖 160 mg/dLから食後血糖 200 mg/dLの範囲となった。血中CPRは入院中8日間で1.09→0.24→0.07 ng/mLと経時的に低下、グルカゴン負荷試験では Δ CPR 0.03 ng/mLと内因性インスリン分泌は枯渇していた。HLA遺伝子型はDRB1*04:05と疾患感受性HLAを持っていた。免疫チェックポイント阻害薬使用の増加に伴い免疫関連有害事象は増加している。糖尿病領域では劇症1型糖尿病の発症が有名であるが、2型糖尿病として治療中に1型糖尿病を発症する事例もありしばしばケトアシドーシスを伴う。本症例では当初近医受診時にSGLT-2阻害薬が投与開始となっており、ケトアシドーシスに拍車をかけた可能性が考えられるため、可能性を想起できること及び啓蒙が必要と考えられる。また、これまでに本邦で報告されたAtezolizumab投与による1型糖尿病発症は1例のみと極めて稀であり、抗ヒトPD-1/PD-L1抗体投与後発症1型糖尿病で腓島自己抗体陽性となる例も少ない。HLA遺伝子型について検討した文献は更に少なく、データの蓄積と検討が期待されている。当院における3例の抗ヒトPD-1/PD-L1抗体投与後発症1型糖尿病の発症様式や経過、腓島関連自己抗体の有無やHLA遺伝子型を比較検討したところ、1型糖尿病疾患感受性HLAは抗ヒトPD-1/PD-L1抗体投与後発症1型糖尿病においてもハイリスクである可能性が示唆された。

千手カハラの奨励と共創のモデル



1949年
1950年
1951年
1952年
1953年
1954年
1955年
1956年
1957年
1958年
1959年
1960年
1961年
1962年
1963年
1964年
1965年
1966年
1967年
1968年
1969年
1970年
1971年
1972年
1973年
1974年
1975年
1976年
1977年
1978年
1979年
1980年
1981年
1982年
1983年
1984年
1985年
1986年
1987年
1988年
1989年
1990年
1991年
1992年
1993年
1994年
1995年
1996年
1997年
1998年
1999年
2000年
2001年
2002年
2003年
2004年
2005年
2006年
2007年
2008年
2009年
2010年
2011年
2012年
2013年
2014年
2015年
2016年
2017年
2018年
2019年
2020年



千手カハラは、EHR (Electronic Health Records) と JAMID (Japan Medical Information Data) の連携を推進している。EHRは医療機関で患者の診療情報を蓄積し、JAMIDはそれらの情報を統合的に管理するプラットフォームである。この連携により、医療の質の向上と患者の利便性の向上が期待される。

2) 「マーマー」の活用
3) 「マーマー」の活用
4) 「マーマー」の活用
5) 「マーマー」の活用
6) 「マーマー」の活用
7) 「マーマー」の活用
8) 「マーマー」の活用
9) 「マーマー」の活用
10) 「マーマー」の活用
11) 「マーマー」の活用
12) 「マーマー」の活用
13) 「マーマー」の活用
14) 「マーマー」の活用
15) 「マーマー」の活用
16) 「マーマー」の活用
17) 「マーマー」の活用
18) 「マーマー」の活用
19) 「マーマー」の活用
20) 「マーマー」の活用
21) 「マーマー」の活用
22) 「マーマー」の活用
23) 「マーマー」の活用
24) 「マーマー」の活用
25) 「マーマー」の活用
26) 「マーマー」の活用
27) 「マーマー」の活用
28) 「マーマー」の活用
29) 「マーマー」の活用
30) 「マーマー」の活用
31) 「マーマー」の活用
32) 「マーマー」の活用
33) 「マーマー」の活用
34) 「マーマー」の活用
35) 「マーマー」の活用
36) 「マーマー」の活用
37) 「マーマー」の活用
38) 「マーマー」の活用
39) 「マーマー」の活用
40) 「マーマー」の活用
41) 「マーマー」の活用
42) 「マーマー」の活用
43) 「マーマー」の活用
44) 「マーマー」の活用
45) 「マーマー」の活用
46) 「マーマー」の活用
47) 「マーマー」の活用
48) 「マーマー」の活用
49) 「マーマー」の活用
50) 「マーマー」の活用
51) 「マーマー」の活用
52) 「マーマー」の活用
53) 「マーマー」の活用
54) 「マーマー」の活用
55) 「マーマー」の活用
56) 「マーマー」の活用
57) 「マーマー」の活用
58) 「マーマー」の活用
59) 「マーマー」の活用
60) 「マーマー」の活用
61) 「マーマー」の活用
62) 「マーマー」の活用
63) 「マーマー」の活用
64) 「マーマー」の活用
65) 「マーマー」の活用
66) 「マーマー」の活用
67) 「マーマー」の活用
68) 「マーマー」の活用
69) 「マーマー」の活用
70) 「マーマー」の活用
71) 「マーマー」の活用
72) 「マーマー」の活用
73) 「マーマー」の活用
74) 「マーマー」の活用
75) 「マーマー」の活用
76) 「マーマー」の活用
77) 「マーマー」の活用
78) 「マーマー」の活用
79) 「マーマー」の活用
80) 「マーマー」の活用
81) 「マーマー」の活用
82) 「マーマー」の活用
83) 「マーマー」の活用
84) 「マーマー」の活用
85) 「マーマー」の活用
86) 「マーマー」の活用
87) 「マーマー」の活用
88) 「マーマー」の活用
89) 「マーマー」の活用
90) 「マーマー」の活用
91) 「マーマー」の活用
92) 「マーマー」の活用
93) 「マーマー」の活用
94) 「マーマー」の活用
95) 「マーマー」の活用
96) 「マーマー」の活用
97) 「マーマー」の活用
98) 「マーマー」の活用
99) 「マーマー」の活用
100) 「マーマー」の活用

千年カルテの現状と今後の展望

Life Data Initiative 代表理事 / 京都大学・宮崎大学名誉教授
吉原博幸

略歴：

1949年長崎県佐世保市生まれ。大阪大学で有機化学、宮崎医科大学で医学を学び、生理学で学位（医学博士）、1995年まで外科（消化器）。その後医療情報学分野へ。1995年より宮崎医科大学、2000年より熊本大学、2003年より京都大学で医療情報学教授を務める。2013年京都大学を退任後、京都大学（情報学研究科、のちに医学研究科）でEHR共同研究講座を主宰し現在に至る。2014.4～2016.3まで宮崎大学病院長兼任。1995年より医療情報の共通化・標準化プロジェクト（MML: Medical Markup Language）、2001年より第1次EHRプロジェクト（Dolphin Project）、2015年より第2次EHRプロジェクト（千年カルテ）を開始。2018年より、LDI代表理事。
（関連情報：<https://www.lidi.or.jp/yoshihara>）



現在の取り組み：

千年カルテ（日本初の本格的EHR、二次利用システム）

概要：地球上どこからでも、患者が自分のカルテ情報にアクセスできる。こうしたシステムの実現のため、政府の次世代医療ICT基盤協議会で筆者らが立ち上げたのが「千年カルテ」である。また、収集、蓄積された医療情報の2次利用によって、医療の質向上、臨床研究利用を推進するのも千年カルテの大きな目標だ。

千年カルテのようなEHR（Electronic Health Record: 医療情報連携基盤）の日本での取り組みは古く、1995年の医療情報共通規格開発（MML: Medical Markup Language）にまでさかのぼる。その後、熊本県や宮崎県で、具体的な仕組みづくりが始まり、東京都や京都府へと拡大。東日本大震災によって医療情報管理の重要性が再認識されたのを機に、2015年に、これら先例を引き継ぎ、日本医療研究開発機構（AMED）の採択事業としてスタートした。

EHRの実現には、3つ課題の解決が必要だ。

- 1) 「データの所在」。患者の医療記録の所在がわからなければ、EHRは機能しない。
- 2) 「データの互換性」。異なる電子カルテベンダーのデータ形式を共通化する規格の開発・普及である。
- 3) 「アクセス制御」。個人情報扱うので、閲覧可能な人や組織をシステムが自動制御する仕組みが不可欠。

これらの技術的問題を解決し、千年カルテでは、医療機関や患者へのサービスを、ゼロ次利用、1次利用、1.5次利用、2次利用までの段階に分類している。

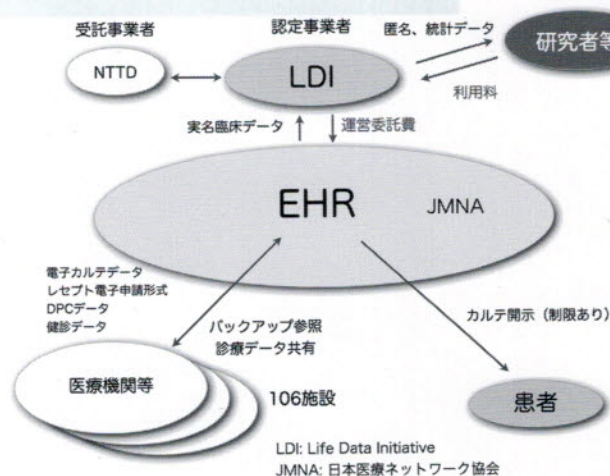
ゼロ次利用とは、電子カルテなどの医療情報（結果情報）をバックアップし、災害時などへの備えとする利用法。

1次利用とは患者自身や医療スタッフによるデータ閲覧（医療情報の共有）をいう。複数の医療機関でのデータ共有が可能になり、診療連携が実現する。

1.5次利用とは、EHRの実名医療データを活用した診療支援のことを指す。例えば、EHR上の医療データを人工知能が分析し、異常値、異常病態の発見、感染症の流行予兆など、診療上のリスクを予測したり、治験該当症例のサーベイランス、市販後調査などへの利用を目指す。

一方、2018年5月11日に施行された「次世代医療基盤法」により、LDIが2019年12月19日に「認定匿名加工医療情報作成事業者」として認定された。これによって、実名で医療情報等を集め、これを匿名加工して有料で研究者等に提供出来ることになった。この匿名加工化医療情報を使って、医療の質向上や医薬品研究開発、公衆衛生、臨床研究、疫学研究、治験支援などにつなげていくのが**医療情報の2次利用**と位置づけられる。2次利用の普及・規模拡大には、国民医療ID、電子カルテデータの網羅的取得など、未だ様々な課題が山積する。国家的事業として、今後も国の積極的関与が必須と考えられる。

千年カルテの事業概要





○ 吉野会 会長の挨拶
○ 吉野会 会長の挨拶
○ 吉野会 会長の挨拶



令和3年度大阪市役所医師会 総会議事録

日時 令和3年8月28日（土）13：30～13：50

場所 大阪市立総合医療センター さくらホール

出席 会員45人 事務局2人 計47人

○上川総務委員長が開会の辞を述べる。

○会長挨拶（要旨）

- ・昨年度はCOVID-19のパンデミックの関係で総会も学術集会も開催できなかった。
- ・今年度は2000人を超す新規感染者の状況、非常事態宣言下ではあるが、ワクチン接種を前提に感染対策を徹底しながら開催することにした。

以下事務局より報告

○令和3年度市役所医師会組織について

○会計報告 令和2年度事業報告

令和2年度決算報告

令和3年度事業案説明

令和3年度予算案説明

○上川総委員長が報告の承認を求め、異議なく拍手でもって承認を得る。

14時よりの学術集会の開始を案内して総会を終了する。

令和2年度 事業報告

1. 総務委員会

- 大阪市役所医師会総会
令和2年8月29日開催予定であったが新型コロナウイルス感染拡大のため中止し、ホームページ及び会報にて周知することを代議員会で決定
- 5大学医師会、府庁医師会との懇談会
令和2年11月26日開催予定であったが中止
- 毎月 大阪府医師会郡市区等医師会長協議会に参加

2. 学術委員会

- 大阪市役所医師会学術集会中止
総合医療センターさくらホール 令和2年8月29日開催予定であったが中止
特別講演：京都大学名誉教授 吉原博幸先生による講演の予定であったが令和3年度に延期

3. 広報委員会

- 大阪市役所医師会会報誌発行（141・142号）
- ホームページ更新

4. 男女共同参画委員会

- 女性医師の会補助
- 女性医師の会会報発行（26・27号）
- 歓迎会 令和2年4月2日
- 女性医師の会総会・講演会 令和3年3月6日（中止・延期）

5. 勤務条件等検討委員会

新型コロナウイルス感染症に関する特殊勤務手当等が新設された

6. 講演会開催等

- 共催 ○十三市民病院糖尿病フェスタ（十三市民病院糖尿病内分泌内科）
令和2年11月16～31日
- 市民公開糖尿病ゼミナール（大阪市立総合医療センター糖尿病内科）
令和2年11月10～16日 Web開催
- 後援 ○かかりつけ医認知症対応力向上フォローアップ研修
（大阪市立弘済院附属病院） 令和3年3月18日 Web開催
- かかりつけ医認知症対応力向上フォローアップ研修
（ほくとクリニック） 令和3年1月30日 Web開催
- 2021年WJOG大阪市民公開講座
（NPO法人 西日本がん研究機構（WJOG）） 令和3年2月28日 Web開催

7. 保健衛生委員会

8. 大阪市医学会との連携

- 大阪市医学会会長賞協賛
- 医学会会費負担

9. すこやかパートナー活動

10. 大阪市救急医療事業団との連携

11. 寄付等

- 日本WHO協会賛助会員
- 弔慰金 正会員1名 継続会員1名
- 大阪市医学会会長賞協賛
- 医学会会費負担

令和3年度 事業計画

1. 総務委員会
 - 大阪市役所医師会総会
 - 大阪府医師会との連携強化
 - 5大学医師会、府庁医師会との連携強化
 - 他大阪市関連医療機関等との連携強化
2. 学術委員会
 - 大阪市役所医師会学術集会開催
 - 大阪府医師会学術集会参加
3. 勤務条件等検討委員会
 - 勤務条件等検討
4. 男女共同参画委員会
 - 女性医師の会補助
 - 女性医師の会会報作成他
 - 大阪市女性医師ネットワークとの連携強化
5. 広報委員会
 - 大阪市役所医師会会報誌発行
 - ホームページ更新
6. 保健衛生委員会
 - 市民公開講座等への後援他
7. レジデント研修医委員会
 - 講演会・研修会補助
 - 研究支援等
8. 大阪市医学会との連携
 - 大阪市医学賞協賛
 - 会費負担
9. 講演会協力
 - 各学術講演会等後援・協賛
10. すこやかパートナー活動
11. その他
 - 代議員会
 - 理事会

大阪市役所医師会 令和3年4月代議員会議事録

と き：令和3年4月28日（水） 午後7時～午後7時30分

と ころ：総合医療センター3階 さくらルーム

出席者：西口 幸雄 細井 雅之 根引 浩子 半羽 宏之 上川 禎則
依藤 亨 出雲谷恭子 村田佳津子 清水 貞利 山口 利昌
金本 元勝 金本 巨哲 藤丸 季可 中井 隆志 宮保 浩子
森川 貴 温井めぐみ 栗原 敏修（18名）
木幡利至朗 山下 直子（事務局）

委任状提出：

古塚 大介 中山 浩二 廣川 秀徹 鈴木 真司 平林 円
中田 真一 岡田めぐみ 喜多村祐里（8名）

1. 委員会報告

- ・ 会長報告 新型コロナウイルス感染症の状況について
- ・ 各委員会報告
 - 総務委員会
 - 男女共同参画委員会 4/2 新入会医師への説明会について
 - 広報委員会 5月会報発行、6月HPパスワード変更
 - 学術委員会 8月25日開催

2. 議題

- ・ 令和3年度市役所医師会組織編成について
- ・ 令和2年度決算見込について
- ・ 「レジデント・研修医研究支援規定細則」修正案（中間報告）について
- ・ その他

大阪市役所医師会 令和3年5月代議員会議事録

と き：令和3年5月25日（火） 午後7時～午後7時25分

と ころ：総合医療センター3階 さくらルーム

出席者：西口 幸雄 細井 雅之 上川 禎則 依藤 亨 出雲谷恭子
喜多村祐里 清水 貞利 藤丸 季可 宮保 浩子 半羽 宏
山口 利昌 金本 巨哲 藤野 光洋 金本 元勝 日浦 義和
栗原 敏修（16名）
木幡利至朗 山下 直子（事務局）

委任状提出：

古塚 大介 中山 浩二 村田佳津子 鈴木 真司 平林 円
中田 真一 岡田めぐみ 温井めぐみ 中西 亜紀（9名）

1. 委員会報告

- ・ 会長報告 新型コロナウイルス感染症の状況について
- ・ 各委員会報告
 - 総務委員会
 - 男女共同参画委員会
 - 広報委員会 会報143号発行
 - 学術委員会 8月25日開催

2. 議題

- ・ 令和3年度市役所医師会の組織編成について
- ・ 学術集会について

大阪市役所医師会 令和3年6月代議員会議事録

と き：令和3年6月23日（水） 午後7時～午後7時20分

と ころ：総合医療センター3階 さくらルーム

出席者：西口 幸雄 半羽 宏之 上川 禎則 根引 浩子 鈴木 真司
山口 利昌 金本 元勝 金本 巨哲 藤丸 季可 出雲谷恭子
村田佳津子 中井 隆志 温井めぐみ 栗原 敏修（14名）
木幡利至朗 山下 直子（事務局）

委任状提出：

細井 雅之 清水 貞利 日浦 義和 中山 浩二 平林 円
中田 真一 宮保 浩子 喜多村祐里（8名）

1. 委員会報告

- ・会長報告 新型コロナウイルス感染症の状況について
- ・各委員会報告
 - 総務委員会 総会、学術集会の写真撮影・感染対策について
 - 男女共同参画委員会 女性医師の会会報7月発行予定
 - 広報委員会 HPのパスワード変更について
 - 学術委員会

2. 議題

- ・学術集会について
- ・その他

大阪市役所医師会 令和3年7月代議員会議事録

と き：令和3年7月27日（火） 午後7時～ 午後7時30分

と ころ：総合医療センター3階 さくらルーム

出席者：西口 幸雄 上川 禎則 細井 雅之 半羽 宏之 村田佳津子
清水 貞利 日浦 義和 宮保 浩子 山口 利昌 金本 巨哲
藤丸 季可 栗原 敏修（12名）
木幡利至朗 山下 直子（事務局）

委任状提出：

中西 亜紀 根引 浩子 出雲谷恭子 中山 浩二 平林 円
鈴木 真司 中田 真一 喜多村祐里 岡田めぐみ 温井めぐみ
(10名)

1. 委員会報告

- ・ 会長報告 新型コロナウイルス感染症の状況について
- ・ 各委員会報告
 - 総務委員会 総会、学術集会準備について
 - 男女共同参画委員会 女性医師の会会報発行について
女性医師の会総会について
 - 広報委員会
 - 学術委員会

2. 議題

- ・ レジデント・研修医支援について
新研究支援規程を作成
- ・ 総会、学術集会準備等の確認
新型コロナウイルス感染状況によってはZoom開催に切り替え

大阪市役所医師会 令和3年8月代議員会議事録

と き：令和3年8月25日（水） 午後7時～午後7時30分
ところ：総合医療センター3階 さくらルーム

出席者：西口 幸雄 上川 禎則 根引 浩子 半羽 宏之 清水 貞利
宮保 浩子 出雲谷恭子 山口 利昌 鈴木 真司 金本 巨哲
藤丸 季可 喜多村祐里 藤野 光洋（13名）
木幡利至朗 山下 直子（事務局）

委任状提出：

細井 雅之 中西 亜紀 日浦 義和 古塚 大介 金本 元勝
平林 円 中田 真一 温井めぐみ（8名）

1. 委員会報告

- ・会長報告 新型コロナウイルス感染症の状況について
- ・各委員会報告
 - 総務委員会 総会、学術集会準備について
 - 男女共同参画委員会 女性医師の会総会及び主催講演会を令和4年3月11日開催予定
 - 広報委員会 会報次号の発行予定
 - 学術委員会

2. 議題

- ・レジデント・研修医支援について
 - 支援規程（案）作成および周知について
- ・総会、学術集会の準備等の確認

大阪市役所医師会 令和3年9月代議員会議事録

と き：令和3年9月28日（火） 午後7時～ 午後7時30分

と ころ：総合医療センター3階 さくらルーム

出席者：西口 幸雄 上川 禎則 細井 雅之 根引 浩子 半羽 宏之
清水 貞利 宮保 浩子 中西 亜紀 日浦 義和 出雲谷恭子
依藤 亨 村田佳津子 山口 利昌 藤丸 季可 鈴木 真司
喜多村祐里 金本 元勝 栗原 敏修 森川 貴（19名）
木幡利至朗 山下 直子（事務局）

委任状提出：

古塚 大介 平林 円 中田 真一 温井めぐみ 岡田めぐみ
(5名)

1. 委員会報告

・会長報告 総会・学術集会について

新型コロナウイルス感染症の状況について

・各委員会報告

○総務委員会

○男女共同参画委員会 女性医師の会役員会開催について

○広報委員会 会報次号10月末発行予定

○学術委員会 学術集会の報告

2. 議題

・総会、学術集会の報告

参加者47人

事業報告、計画、予算、決算について

学術集会 優秀賞同点のため2名受賞

来年度開催予定について

・レジデント・研修医支援について

規定等の再調整について

・かかりつけ医認知症対応力向上フォローアップ研修の後援申請について

・新型コロナウイルス感染症におけるカクテル療法等治療体制について

大阪府役所医師会代議員一覧（ブロック別）

（令和3年4月1日現在）

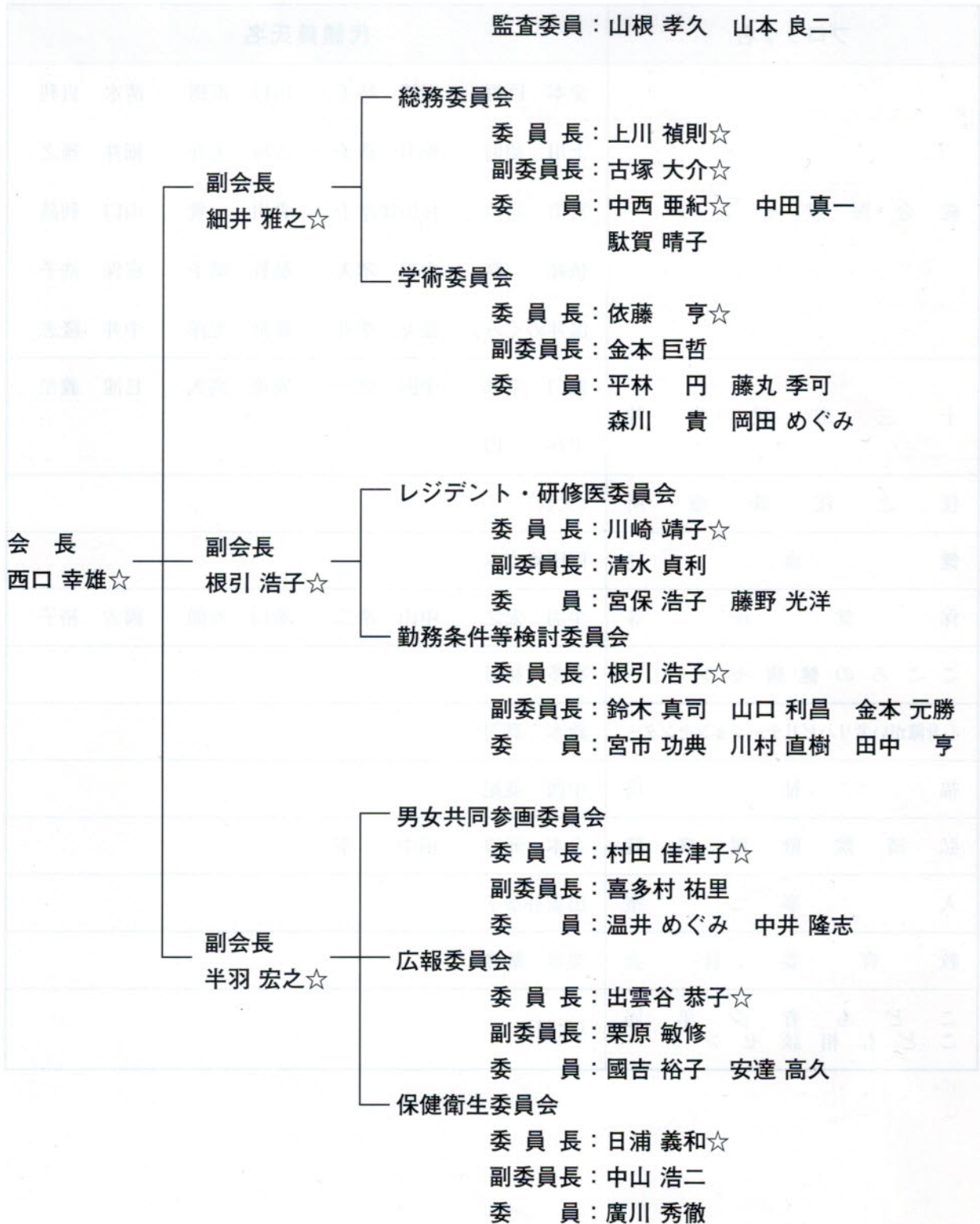
ブロック名	代議員氏名
総合医療センター	金本 巨哲 川崎 靖子 川村 直樹 清水 貞利 上川 禎則 根引 浩子 古塚 大介 細井 雅之 宮市 功典 村田佳津子 森川 貴 山口 利昌 依藤 亨 山根 孝久 駄賀 晴子 宮保 浩子 温井めぐみ 藤丸 季可 藤野 光洋 中井 隆志
十三市民病院	西口 幸雄 中田 真一 安達 高久 日浦 義和 平林 円
住之江診療所	(欠員)
健康局	岡田めぐみ
保健所等	半羽 宏之 中山 浩二 廣川 秀徹 國吉 裕子
こころの健康センター	喜多村祐里
心身障がい者リハビリテーションセンター	鈴木 真司
福祉局	中西 亜紀
弘済院附属病院	金本 元勝 田中 亨
人事室	出雲谷恭子
教育委員会	栗原 敏修
子ども青少年局 子ども相談センター	(欠員)

大阪市役所医師会役員・委員会組織表

令和3年4月28日 任期：令和4年4月30日

議長：総会時に指名

☆は理事



お知らせ

会員名簿について

会員名簿については、大阪市役所医師会ホームページ <http://www.ocma.jp/> の会員専用ページに掲載しております。会員専用ページ閲覧に必要な ID とパスワードは令和 3 年 5 月に事務局より先生方に通知させていただきました。

会員情報を各自ご確認いただき、修正必要箇所がありましたら、恐れ入りますが事務局までメールにてお知らせください。年度途中で退職予定の方は、退会届を事務局にご提出ください。その他、会員の転入・転出・異動があればご一報くださいますようお願いいたします。

大阪市役所医師会事務局の連絡先は、TEL 06-4792-7070、
メールアドレスは ishikai@oepa.or.jp です。

編集後記

勤務医師会報 144 号が出来ましたのでお届けします。先生方にはお忙しい中原稿をお寄せいただきありがとうございました。

新型コロナウイルス感染症との戦いが長期化する中でも、本年度の総会及び学術集会在開催され、少しずつでも日常が戻りつつあることを実感することができました。一方で、第 5 波の襲来により、公衆衛生の現場も医療の現場も逼迫し、更に疲労が蓄積しておられることと思います。最前線でご対応くださっている方々の安全がどうか守られますように。また、少しでも早くこの事態が収束し、日常が取り戻せますように、引き続き一人一人ができることを確実に行っていきたいと思います。

出雲谷 恭子 記